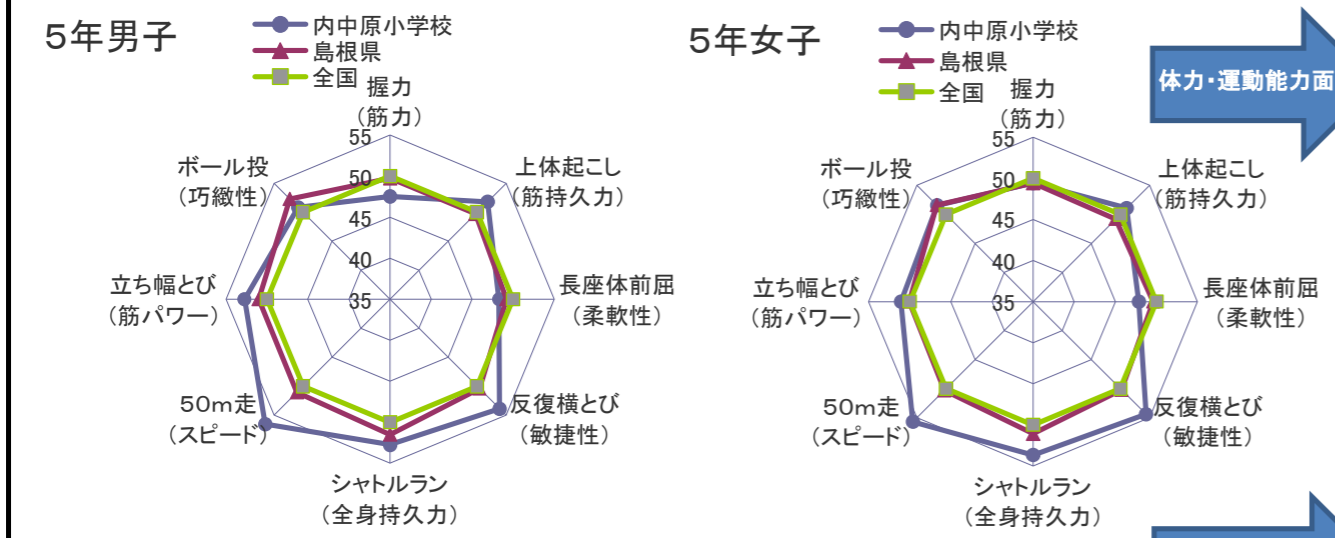
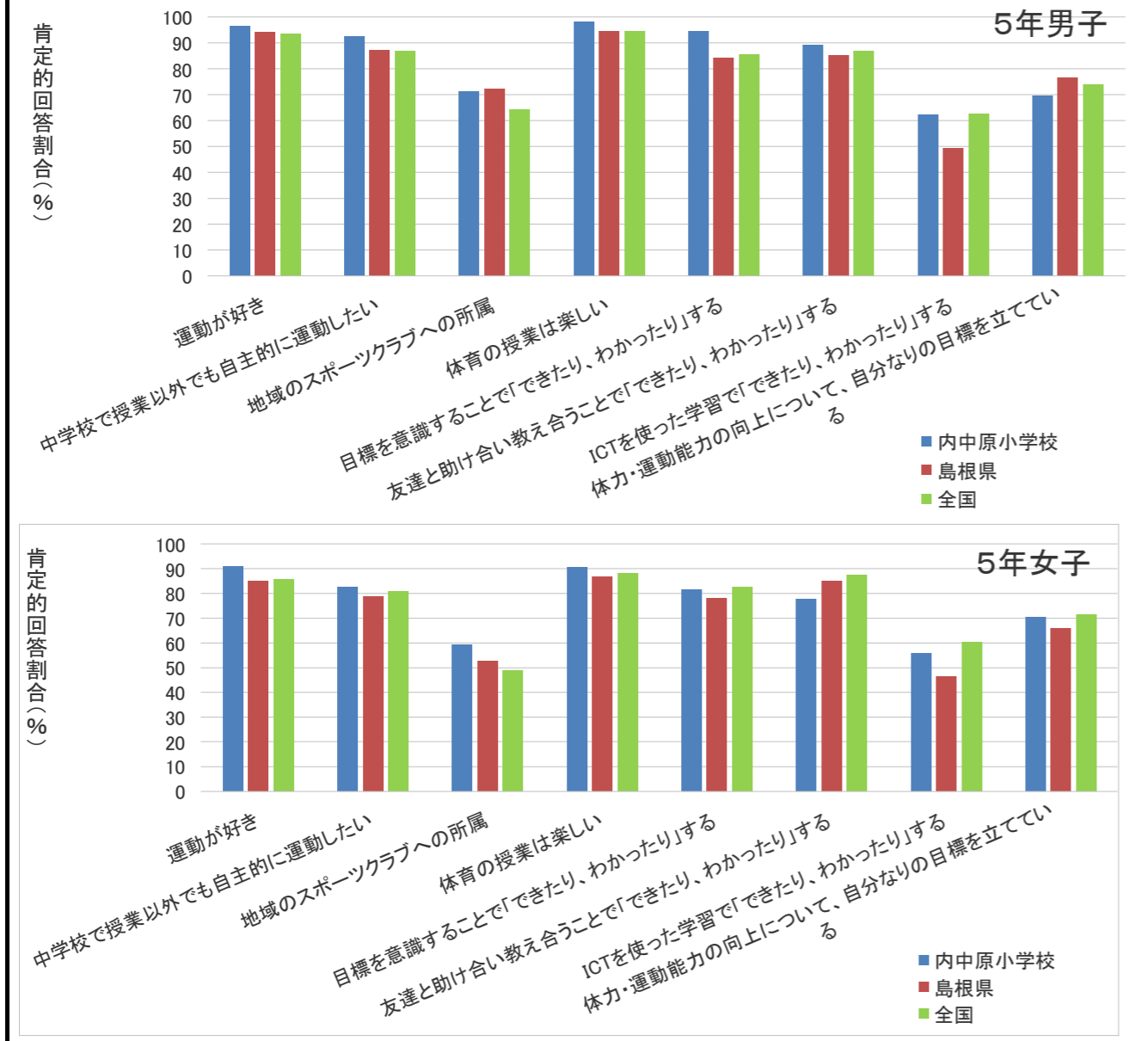


内中原小学校

(1) 令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果(全国平均を50としたときの比較)



全国体力・運動能力調査、運動習慣等調査＜意識調査＞の結果
(体力合計点との相関が指摘されているものや松江市教育委員会として注目しているものを挙げています)



(2) 調査結果の分析

① 体力・運動能力面 全国(偏差値)との比較

	握力 (筋力)	上体起こし (筋持久力)	長座体前屈 (柔軟性)	反復横とび (敏捷性)	シャトルラン (全身持久力)	50m走 (スピード)	立ち幅とび (筋パワー)	ボール投 (巧緻性)
男子	-2.5	1.8	-1.7	3.9	2.7	6.5	2.8	0.8
女子	-0.6	1.1	-2.1	4.4	3.7	5.7	1.1	1.5

【-5p以上】 【-5~-2p】 【-2~0p】 【0~2p】 【2~5p】 【5p以上】
弱み ← → 強み

② 意識面 全国(割合%)との比較

	運動が好き	中学校で授業以外でも自主的に運動したい	地域のスポーツクラブへの所属	体育の授業は楽しい	目標を意識することで「できたり、わかったり」する	友達と助け合い教え合うことで「できたり、わかったり」する	ICTを使った学習で「できたり、わかったり」する	体力・運動能力の向上について、自分なりの目標を立てている
男子	3.0	5.5	7.1	3.6	8.9	2.5	-0.1	-4.2
女子	5.0	2.1	10.5	2.5	-1.1	-9.7	-4.4	-0.9

【-7%以上】 【-7~-3%】 【-3~0%】 【0~3%】 【3~7%】 【7%以上】
弱み ← → 強み

(3) 令和8年度の方針【学校全体での取組】

(1) 年間を通した取組

- ・学年で統一した運動に継続して取り組み、体力・体感覚の向上に努める。
- ・委員会活動とタイアップし、レクリエーションやなわとび運動を通して運動を楽しむ機会を設ける。
- ・体育授業において「25分以上の運動時間確保」を目標に、授業運営についての情報交換を図る。

(2) 授業の工夫・改善

- ・主体的に学習に取り組む態度、個に応じた目標設定、振り返りによる改善の三点を重視し、学年や発達段階に応じて段階的に取り入れていく。低学年では、運動の楽しさを味わいながら簡単なめあてをもつことを大切に、中学年では自分の運動の様子を振り返り、次のめあてにつなげる学習を位置付ける。高学年では、自身の体力や運動課題を踏まえた目標を設定し、取組と振り返りを通して改善を図る自己調整的な学びを重視する。これらの取組を体育授業や運動の時間に計画的に位置付けることで、児童が自ら体力向上に関わろうとする意識を高め、生涯にわたって運動に親しむ基盤の育成を目指す。
- ・体育の学習に役立つ資料やワークシート等を共有フォルダーに保存し、どの領域でも児童が安全に楽しく学習に取り組むことができるようにする(継続)。
- ・投運動の強化が必要。場所の制約や母体の多さから投運動に取り組む機会が少ないことが原因だと考えられる。体育授業における強化週間(ボール運動・ジャベボール・玉入れ用玉の活用)を設ける。
- ・体力テスト結果配付を機に、各家庭でも子どもたちの体力について考えてもらう機会を設ける(継続)